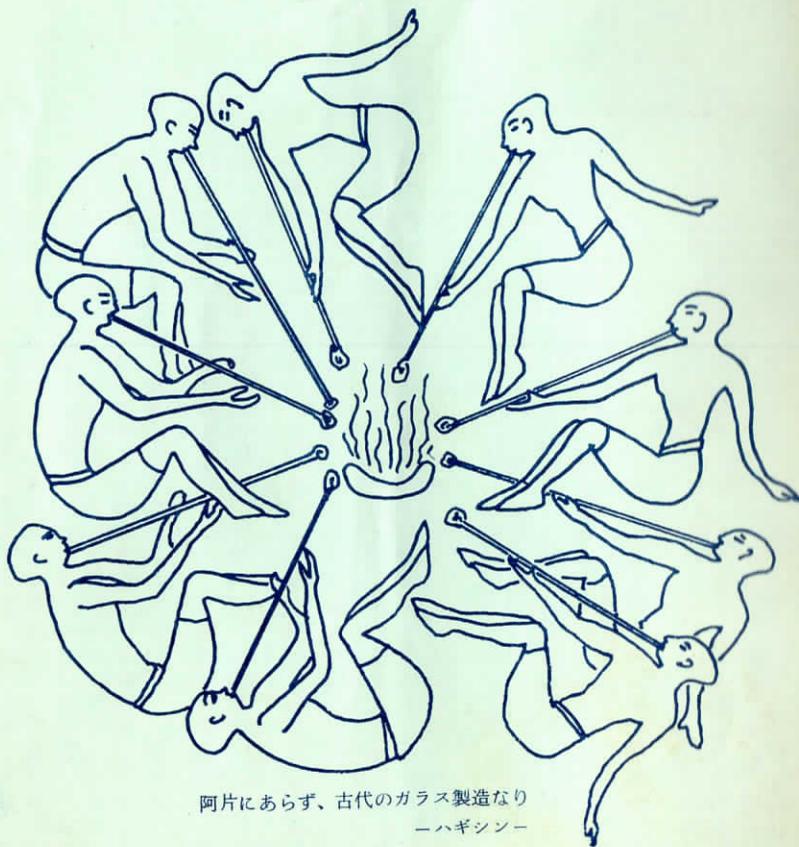


# リベルテール

10月号



阿片にあらず、古代のガラス製造なり  
—ハギシン—

Libertaire Vol, VIII. No.11

無政府主義誌

昭和52年10月15日発行第93号  
第三種郵便物認可  
リベルテール定価一〇〇円(郵便料共)

大杉栄主幹・労働運動・第1次～第4次 再版上製	10,000円	何か私をこうさせたか 金子ふみ子歌中手記決定版	2,400円
純正無政府主義 農村社会革命講座八太舟三著	150円	解説：瀬戸内晴美 金子ふみ子歌集	500円
階級闘争説の誤謬 八太舟三著	130円	権藤成郷著作集2 農村自救論・日本農制史談	3,000円
無政府共産主義 一人類解放の道—八太舟三著	700円	大杉栄秘蔵 増補 堀保子ほか19氏著	1,100円
無政府主義組織論 マラテスタ著	150円	無政府主義論 エンリコ・マラテスタ著	300円
選挙戦に際して —付略伝— マラテスタ著	150円	ディナミック 石川三四郎個人紙復刻版	3,000円
農民の中へ マラテスタ著	200円	アナキスト革命 ジョージ・バレット著	150円
マフノの農民運動 石川三四郎著	150円	西洋社会主義運動史 石川三四郎著	1,000円
ペルテロー著ノ山鹿泰治訳		ロシア革命の批判 Aベルクマン著	200円
平民の鐘 —無政府の福音—	150円	黒色青年 黒色青年連盟機関紙 大正15年	2,500円
無政府主義者は答える 岩佐太郎著	150円	創刊号より昭和6年終刊号まで復刻	
石川三四郎ほか三氏著		黒色戦線 アナキズム文芸思想誌 第1次	5,000円
日本無政府主義運動史 第一編	350円	昭和4年創刊号より終刊号まで復刻	
叛逆者の半蔵手記 大杉・朴烈ら十二氏著	200円	労働運動第5次昭和2年復刊号より終刊号復刻	
獄窓から —増補決定版— 和田久太郎著	800円	差別とアナキズム・水平社運動と	
死刑囚の思い出 —増補決定版— 古田大次郎著	700円	アナ・ボル抗争史 宮崎晃著	1,600円
——・二皇居発煙筒事件訴訟記録——		君民共治論 権藤成郷著作集第3巻	3,000円
天皇制破壊への渦動 増補版 塩谷雄高氏の天皇批判の証言収載・付大島英三郎自伝資料	800円	無支配への道 マラテスタ著作集1	300円
雑誌労働運動(大正13年3月号発禁を復刻)		アナキズムのABC ベルクマン著	150円
大杉栄・伊藤野枝追悼号	400円	古事記神話の新研究 石川三四郎選集1	2,500円
漫文・漫画 大杉栄・望月桂共著	1,000円	<解説・石川三四郎論 大沢正道>	
自治民権(全)再版 権藤成郷著作集 第一巻	4,500円	自治民政理・訓訳南洲書 権藤成郷著作集4	4,500円
正義と道徳 クロボトキン著麻生義訳	250円	自伝(自由人の放浪記 浪)石川三四郎選集7	5,000円
龍波大助大逆事件 虎ノ門で現天皇を狙撃	1,000円	金子文子・朴烈大逆事件裁判記録・参考資料	12,000円
弁証法的唯物史観の批評 石川三四郎著	150円		
無政府主義とサンジカリズム 石川三四郎著	150円		
進化と革命 補正版 付石川書簡集	150円		
ルクリュ著 石川三四郎訳			

■ リベルテール

■ 1977年10月15日発行 Vol., VIII No.11

■ 編集兼発行者 三浦精一

■ 発行所 東京都練馬区大泉学園町2190

萩原晋太郎方 リベルテールの会

九月末から十月初旬にかけて、台風のように一過した三つの事件、それは社会党大会、日航機の墜落そして日航機のハイジャックであった。墜落事故で、めずらしく助かった人が多かったことは不幸中の幸だつた。

社会党大会とハイジャック事件とは、われわれに大きな警鐘となるものだとすることを考えねばならない。何故こんなことになるのだろうかと考えた人、考えた人が一体どれだけののだろうか。どちらも社会思想に關連したものである。われわれアナキストが、われわれの存在を賭けているのは、この思想の問題である。

アナキズムは無政府主義と訳され、われわれは無政府主義者と自任する。しかし大杉が世にいた頃と変つて今の日本ではアナキストの数は至つて少なく、その活動も秋風落葉の姿で世人は二、三のマスコミに乗ったアナキストの存在を知っているに過ぎない。

ところが、このアナキズムは絶対に世界から消えて無くなるどころか、折にふれては、人々にアナキズムこそ人類の最終最高の理想であることを認めさせる。権力主義者マルクスもレーニンも、ともに弁証法的発展の究極において国家は消滅し、無政府社会になることを言ひもし書きもしているのだ。しかしそこに到達する過程において、国家は消滅し、無政府社会になることを言ひもし書きもしているのだ。考えても見るが良い。権力によって権力が消滅するということがあり得るか。キリストも悪魔の踏台が無くなつたらどうする。このことをハッキリ示すのが社会党の大会だつたのではないか。協会派の最後の線はどこに引かれていたのか。社会党の幹部共も本場のネライはそれぞれの派閥のイニシヤティブとヘゲモニーなのだ。醜悪な野心家共の党争の表面化に過ぎない。こうした醜類が政権にありついで自民党と異つた革新ができるとしたら、太陽が西から昇るだろう。

ハイジャック事件は、こうした醜類とは別の純な青春の情熱を賭けた行動だ。したがって若い人々の中には快哉を叫ぶものもあるだろう。しかし赤軍政権を目指す点で、手段が異なるだけで社会党の協会派や共産党と別のものではない。マルクス・レーニン主義である。被圧迫大衆の中で国際的な活動が続けている間はスリルもある。「鉄の団結、統制」といつた権力機構も魅力的だろう。すべてが順調でばかりあり得ない。「人間とその自由」を考へる日もあり、現国家の反目とスパイの区別がつかなくなる日もある。義経経済によつて滅亡の淵に歩いてゆく人類を生き残らせるものとして存在する。それは人間の苦悩の中からはじみ出たもので、未完成の思想である。未完成の中でも、人間の自由、人が人の上に権力をとつてはならないこと、そして人間の友愛を目指すものである。(三浦精一)

三つの出来事

To the Hijackers  
the Japanese authorities  
the German Commando  
the German authorities

There are many people  
who would like to kill a man  
if they could justify their deed  
by a principle, an idea or for  
the order of the society.

Also there are the people  
like the ancient Romans in Colosseum  
who put up their thumbs and exclaim  
Kill him, Kill him!

But thanks God!  
I am spared from them  
as a gentle anarchist.

- Y. H. -

ハイジャッカー  
カージャッカー  
長崎県警  
日本政府  
ジャーマンコマンド  
西独政府  
各位殿

今月のことは

世の中、大義名分さえ立てば  
人殺しがしたく、うずうずする人が  
いるように  
また、不景気となれば  
古代ローマ人みてえに  
観客席から親指を立て  
殺せ、殺せ、  
と喚く人もあるようにござんすが  
あつしには何のかかわりあひも  
ござんせん  
(木枯紋次郎)

目次

巻頭言	.....	1
アナキスト・アイデンティティ	.....	2
黒色青年連盟の創立	.....	3
マックス・ネットラウ図書館を訪ねて	.....	7
戸田三三冬	.....	9
梅田順子	.....	12
海外だより	.....	14
一波万波	.....	17
(宮本礼子、江川允通、清水君)	.....	20
中国無政府主義試論(7)	.....	20
野火(江藤論)	.....	20
志麻達夫	.....	17

発売中

朴烈・金子文子裁判記録

刑法第七三条ならびに  
爆発物取締罰則違反  
1 付参考資料1

A 4版 一万二千円  
黒色戦線社刊

## ☆ 1 から2へのインテルメッツオ

古典の学習——それもあつてしよう。最近「幸徳秋水の思想と大逆事件」という本が出たようです。著者の大原氏が、アナキストとしてのアイデンティティーをお持ちかどうか知りませんが、革命思想の「研究」家で、で自分はその思想を信奉しない人は、昔からいる訳で、そういう人の存在を知るたびに「白鳥は悲しからずや……」という和歌を思い出します。

また、いにしえの大アナキストの追慕、という方法もあるかもしれませんが、大杉の記念集に会場を埋めた人たちがアナキストにならないでいられる、という心理的規制は（私の一つのアイデンティティーは、「心理学のスタンダード」なのですが）私には到底理解できないものです。最近、田中正造の著作集が出版されたようですが、三里塚に駆つけくもせずに書齋でそれを読んでいられる、というのは、私には精神病理に属すものと思えません。

それよりも、そういう現実があるのなら、どのような事（が言われるの）に対して「そんなことを言うのはアナキストじゃない」と言われるのか、リスト・アップして、（この言葉を浴せられたことのある人や、なくても「こういうことを言うと、この言葉を浴せられるんじゃないか」と思つて言うのをやめたことのある人、からも「どんなことを言う」とこの言葉をピジャツと叩きつけられる恐れがあると思うか）について、考えられる限りの事を挙げてもらつて）それらを系統的に並べる、という（概念的）操作——情報的作業をすれば、そこからアナキストという概念の内容が経験的に（私はこれを科学的にと言いたい）与えられるでしょう。

こういう科学的——心理学的なやり方を頭からはねつけ、「アナキストの内実は概念化されるものではない——心情的なものなんだ」と主張する人もいるかもしれませんが、私が持っている「アナキストとは何か」という概念からは「そういうことを言う人こそアナキストじゃない」ということになりません。そういう「心情的アナキスト」の心情は、専制君主のそれと同じで、もしもアナキストが専制君主で革命を起こせたら、そういう心情の持ち主は専制君主と共にギロチンにかけねばなりません。

こう言うと、「お前のようなことを言うヤツはアナキ

2. アナキストが集まって話しあいがされると、「そんなことを言うのはアナキストじゃない」という意味の言葉が飛び出すのは、よくあることです。（私自身、そう言いたくならないことが、よくあります。）この言葉を聞いて、或いは自身が浴びせられて、苦々しい思いをした人が、「（自分を）アナキストだ、とは言わない」とか、「アナキストという言葉にとらわれない」と言うのも、これまた「よくある」ことですが、「無理もない」と思っています。（私自身、「私はアナキストだ」と言おうとは思っていません——そういうには、私の思想は余りに異端です。しかし、私が「この人はアナキストだ」と思っている人から「お前はアナキストだ」と言われたら、光栄と存ずる、でしょう。）

けれども、「そんなことを言うのはアナキストじゃない」という言葉がすぐ飛び出すという傾向があるのなら、それは一つの「現実」ではないでしょうか？ それを不快に思う人が少なくない、のも（もう一つの）現実かもしれません。だからといって、前者の現実は、「無くなれ」と「思つたり」、言つたりしても消えるものではない、と「思つたり」たとい消えるとしても、そうやって消えさせることが、また消えたということが、前者の現実の存在よりも有害かもしれない、とも思われます。

「ストじゃない」と言う人がいるかもしれませんが、これで、リストには、まず2つの「そういうこと（を言うのはアナキストじゃない）」に該当することが並んだ訳です。もう一つ既に出てきます——「『おれアナキスト』と言うだけで、アナキストの概念の空っぽな人はアナキストじゃない。」さあ、四番目、五番目……、をつぎ足してください。

## 黒色青年連盟の創立

武 良 二

当時、岩佐・大杉を中心とした集りになっていた。個人を中心とした片寄つた集りのように見えた。こうした個人を中心とした集りが社会運動の形態として、これによいものだろうかと思つていた。このような情勢はアナキズム運動の進展に、正しい行きかたかどうかに疑問をもつていた。一つの団体に集中的に集っていることはアナキズム自体の運動の型体として、一応考慮しなければならぬかと思つたのである。社会運動であり、労働運動である限り、アナキズムの社会理想を目標とする限り、広い範囲に糾合されて連合的なものによつて、社会運動の形態に押し進めて行くべきではないかと思つ

ていた。当時アナキズム運動が個人的な範囲を出ることができない、弱いものであったことによるものだと思ふ。私はそうした考えを持っていたので、当時「労働運動」の署名人になるように、近藤から私に要請があつたが、それを断つたこともある。それというのも一つの団体に片寄ることは、そこに権威というふうなことではないにせよ、ある種の形を構成する疑念があること、一方的に属さないで広い範囲から集つて個人あるいは団体との交渉にあたるのがアナキズム運動によい結果をもたらすと思つていた。

この頃、われわれの周囲には多くのアナキイ的な団体が出来て自主的に活発な動きを見せていた。この状況は連合体の組織には十分な情勢になつていた。恐らくは十団体以上だつたと思う。この機会に川口慶助が私のところに来て、われわれの陣営の団体も相当にふえたので連合体をまとめてはどうだろうか、あなただつたらまとめられると思うがどうか、というのである。もともとそうした話が周囲に出ていたことだし、僕としてもそのような考えを持っていたので、連合組織の準備にふみきることにした。そのような気運に乗つていたので急速に話が進んで駒込のある二階で最初の準備の会合をした。二十名位集つた。議論らしいものは出なかつた。もちろん

アナキストの団体である限りアナキスト的に話合がなされたのは当然で、その輪郭等の申合せが必要だったので、そうしたことについて話合が進められ、左記のようなことが確認された。

1. アナキストの参加団体で、あくまでも各団体の連合体であること。
2. 各団体の自主性を尊重して連合体の基本とする。
3. 共通の問題について協議する。行動への参加は自主的である。個人的な入会も認める。
4. あくまでアナキイ的な精神に立脚する。

というふうなものだつた。これは武の議事進行によつて行われた。もつとも重要とされたことは、一人あるいは数人による集りではないこと、各団体の自主的な協議機関であること、これはこの連合会の出発主旨に明らかである。これは繰返し述べられた。各団体がその連合体によつて拘束されないことは、アナキストとして自由な活動と、明るさと、外部に対する自由な活動進展を求められるからである。しかも個々の加盟団体が自主的に責任を持ち、他にその責任を波及させない意味も含む。黒色青年連盟は、その当初において、その精神、その出発に誤りはなかつた。決して一団体として漠然と成立したのではない。ここに留意すべきである。

宣言は武が起草した。その案文を宮島資夫のところへ持つて行つて、内容は別として、文章としてはどう思ふかというところで見せると、彼はあぶない、やられませよ、といつて良い悪いも言わなかつた。宣言は関西その他のものよりもかなり強気のもので、アナキスト団体の宣言としては理論的にも強さも正しいものだつた。それはアナキストの根柢を強調したものだつた。当時うるさい時代だったので宮島はかかり合いを恐れたのであろう。で、責任は私にあることとして、そのまま宣言を出すことにした。その東京のアナキスト連合体の歴史的な最初の宣言が、今になつては一枚も残っていない。残念だが誰かが残していないものだろうか。次のものは私の記憶をたどつて書いたものだが大体の意は含んでいると思う。

#### 宣言大意（記憶によるもの）

人類は悠久な歴史をたどつてきた。人類みずからの理性意力によつてその歴史をささえてきた。この長い人類の歴史につきまといつて来たものは、国家権力、権威である。この暴力が如何に人民を苦しめたことであらう。それは数かぎりがない。農民の反逆運動によつてあきらかであるが、今日に至つてもさらに人民の上に権力が如何

身に受ける生活から受ける経験によつて明らかである。われわれにつきまといつて執り除かなければならない。これ以上国家、権力、権威に服従することは、たえ忍ぶことのできないことである。われわれは万人の自由、幸福の社会を打建てなければならぬ。人間の本性である正義心、良心、理性を完全のばし、成長さすことのできる自由な社会をうち建てなければならぬ。

×

高円寺、大宮、亀戸で大小の演説会が行われた。発会演説会は芝区の協調会館で開催された。（ここにアナキストと称する者の中の悪質な要素について書かれているが、銀座デモの後にまわす。三浦）

協調会館での発会演説会するとき、演壇には団体旗が二十本も立ちならんでいた。演説を初めると、出る者ごとに片っぱしから中止で全然話しをさせない。中頃になるとやがて解散をさせかねない状況を感じとつたので、伝令を出して大急ぎで外に出て、銀座に向うように伝えた。それが皆に行きわたつた頃に、解散になつた。それを待つていたように皆が駆け出して銀座に向つた。警察の方では不意打ちされた形で全然手のほどこしようなかつた。橋を渡つて銀座一丁目あたりから巻いていて旗をひ

るがえしはじめた。ふりかえるとかけてくる人の列、旗は上下にゆれて実に壯観だった。このたくさんな人と黒旗、こんなことは全くまれなことだったろう。(この頃の原文を、文意を害はないよに多少書替えた。三浦)

三丁目にさしかかったあたりから、誰かが僕に寄り添っている気配がする。もう特高が嗅ぎつけてきたかと思つて様子を見ていたが、度々寄り添つて僕を引っぱるようなので手で強くはねのけながら後をふり向いて見ると前田という奴である。これは全く驚いた。僕が何のまねをするかと大声にどなって、ちよつと間をおいてふり向いたときには彼はすでに消えていた。後で話だが、望月辰太郎の後にもついて来ていたそうだが、僕にしくじつたので望月にかわつたのであろう。四丁目近くになると、向う角の交番ではすでに乱闘が初まっているようだ。僕はつけ狙われているので横道にそれて、そのなりゆきを見ていた。

黒色青年連盟の初期における活動は華々しいものがあったが、しかしその内部には悪質な暗影が流れていた。街頭の電灯をこわす。スパイ(私服刑事のこと)三浦)から平気で物品を貰う。アナキストに善意を持つている評論家、文士に対して卑屈な行為をする、いやがらせをする。新居格は買つたばかりの下駄をはきかえられた。

加藤一夫は書籍を持ち出された。ある本屋は自動車一台もの本を運びさられた。牢獄に行っている同志の妻が隣の町工場に勤めについている留守をよいことにして隣のそば屋から四五人で天ぶらそばをとつて喰い逃げをした。

：：：弱い者に毒牙を向けて強い者や権力には尾を振つてスパイの手先にもなる。：：：黒連の中にもつとも悪質のものが二、三人いた。：：：僕は前田には言葉をかけたなり、相談したことはほとんどなかった。：：：黒色青年連盟は宏大無辺の根本理念を基礎として発祥した。無知な狹隘な連中はこれが理解できない。：：：アナキズムを理解しようとしなくて、階級制度の中から生れた汚い愚劣な感情によつてふみにじられたことは非常に残念なことである。：：：このためにサラリーマン組合の江川菊次郎、労働運動の近藤憲二は、その当時において脱会を声明した。黒連はすでにその当時において消滅したので、残つたのは掠屋のゴロツキだけになつたのである。：：：

×

註1. 黒色青年連盟が結成されたのは一九二五年、一九二六年一月末日第一回演説会後銀座デモ、商店二百数軒のジョーウィンドを破壊し七人入獄(銀座事件)

註2. 著者武良二は一八九五年(明治28)八月十五日鹿

児島に生れた。東京歯科医専(現在の東京歯科大学)在学中、米騒動の時、大杉等の講演会で警官たちと渡り合う姿に「私の眼が開いた」と言っている。近藤栄蔵の「コミンテルンの密使」の中で、一九二一年十一月東京陸軍大演習に際して反戦ピラをまいて捕えられた事情を書き「武はおとなしい無口の青年で、歯科学生だった」と書いている。

註3. これは自伝の中の一部で、私としては上海当時のことを続けて紹介する予定だったのだが、原文のまま出す訳に行かないということもあり、多忙さに五ヶ月かかってやっとこれだけしかまとめられないうえに、武氏から原稿返還を迫られて、申訳をさに恥じている。誠実を先輩武氏の御寛容を乞う。

### マックス・ネットラウ図書館を訪ねて

戸田 三三冬

(註)八月号に紹介した戸田三三冬「南欧からの手紙 エリコ・マラテスタをめぐることども」のうち、マックス・ネットラウ図書館に関する記述を、筆者の了解を得て、転載しておく。冒頭部は原文を転載にみあうように少し変え、添付されている原語は割愛した。

戸田氏から寄せられた書面の前半を付け加えておくので、あわせて味読されたい。標題は文意にあうように私がつけたものである。(文責・若山)

マックス・ネットラウ図書館はP・C・マシーニガネットラウを記念して北イタリアのベルガモに開いている私設図書館である。この図書館のテーマは、無政府主義運動より更に広義の「解放運動」であり、労働者、女性、学生、芸術家、「言語、民族、宗教、性別、年令、教育、社会的・肉体的・心理的条件、のために差別される者」、兵士から囚人、僧までを含む人々の、自由・尊厳・独立の諸権利に関する史料の、収集・整理・保存を目的とするものであり、伝統的にカトリック文化の強いベルガモの町に、市民の手による「解放運動に関する勉学・研究の一センター」を設立・運営することは、それ自体、「自治の行為であり、創造的論争の行為」である、とされている。：：：

それは、畠の中に建てられた赤瓦の一軒家で、車庫の隣の入口に、「『マックス・ネットラウ』図書館」と小さく表示がある。一階は車庫と図書室(書庫・閲覧室)、訪問者の為の広い客室で、この中央から小さな廻り階段が二階に通じている。：：：私が「仏陀も広義のアナキス